

新 旧 対 照 表

改 正 後	現 行	備 考
土木工事施工管理基準	土木工事施工管理基準	
<p>第1～4 【略】</p> <p>第5 施工管理の実施</p> <p>1 施工管理責任者 受注者は、土木工事等共通仕様書第1編1-1-10条 主任技術者等の資格に規定する技術者等と同等以上の資格を有する者を、施工管理責任者に定めなければならない。施工管理責任者は、当該工事の施工管理を掌握し、この基準に従い適正な管理を実施しなければならない。</p> <p>2～7 【略】</p>	<p>第1～4 【略】</p> <p>第5 施工管理の実施</p> <p>1 施工管理責任者 受注者は、土木工事等共通仕様書第1編1-1-9条 主任技術者等の資格に規定する技術者等と同等以上の資格を有する者を、施工管理責任者に定めなければならない。施工管理責任者は、当該工事の施工管理を掌握し、この基準に従い適正な管理を実施しなければならない。</p> <p>2～7 【略】</p>	<p style="color: red;">誤記の修正</p>

新 旧 対 照 表

改 正 後 **現 行** **備 考**

別表第1 直接測定による出来型管理 【森林整備保全事業編】

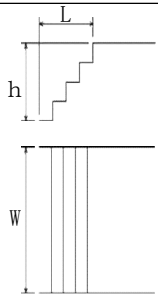
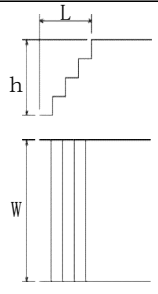
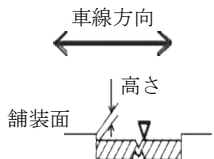
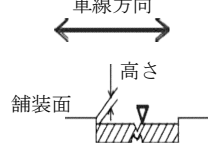
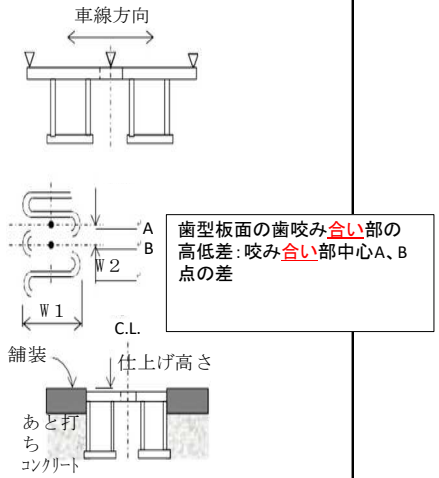
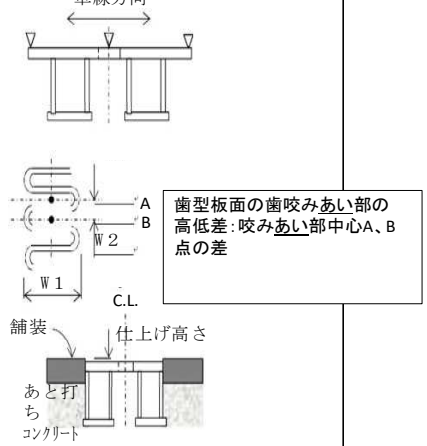
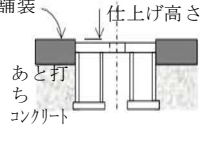
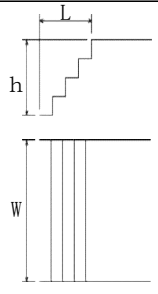
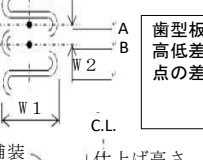
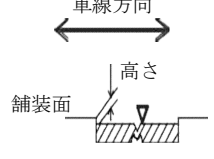
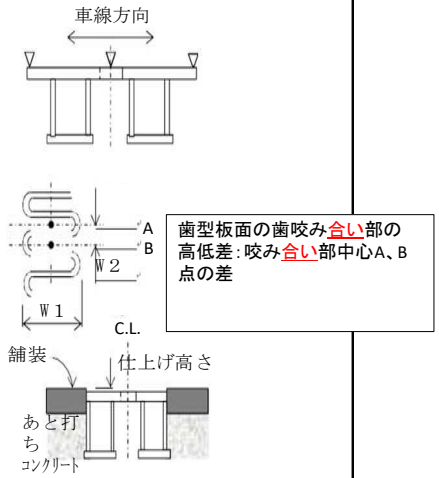
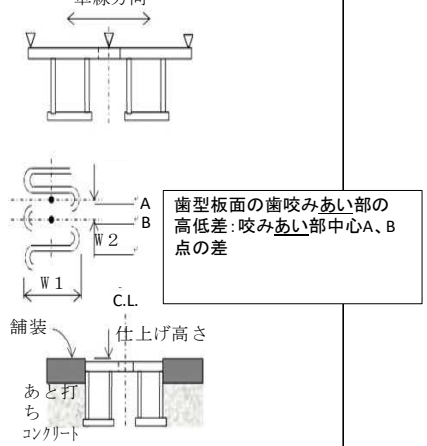
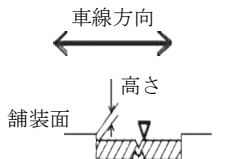
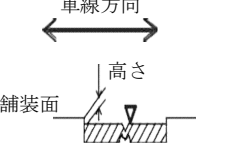
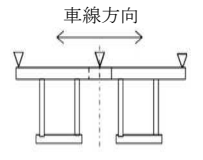
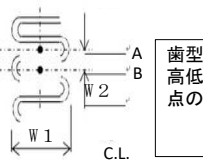
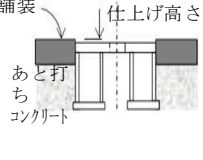
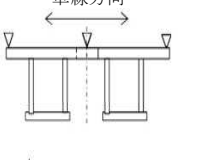
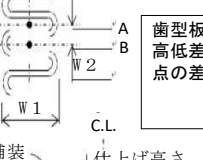
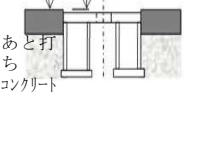
別表第1 直接測定による出来型管理 【森林整備保全事業編】

工 種		項 目	規格値(mm)	測定基準		
3 一般 施工 種	1 共通 的 工 種	1 矢板工 〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 ▽	±50	基準高は、施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
			根入長	設計値以上		
			変位 ℓ	100		
		2 緑石工 (緑石・アスカ-ブ)	延長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所	
		3 小型標識工	設置高さH	設計値以上	1ヶ所/1基	
	基礎		幅 w (D)	-30	基礎1基毎	
			高さ h	-30		
			根入長	設計値以上		
		4 路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w (D)	-30	1ヶ所/施工延長40m、40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇所
				高さ h	-30	
			ビーム取付高H		+30	1ヶ所/1施工箇所
					-20	

工 種		項 目	規格値(mm)	測定基準		
3 一般 施工 種	1 共通 的 工 種	1 矢板工 〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 ▽	±50	基準高は、施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 変位は、施工延長20mにつき1ヶ所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
			根入長	設計値以上		
			変位 ℓ	100		
		2 緑石工 (緑石・アスカ-ブ)	延長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所	
		3 小型標識工	設置高さH	設計値以上	1ヶ所/1基	
	基礎		幅 w (D)	-30	基礎1基毎	
			高さ h	-30		
			根入長	設計値以上		
		4 路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w (D)	-30	1ヶ所/施工延長40m、40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇所
				高さ h	-30	
			ビーム取付高H		+30	1ヶ所/1施工箇所
					-20	

字句修正

新 旧 対 照 表

改 正 後			現 行			備 考
管 理 方 式			管 理 方 式			
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に朱記、併記するもの	測定箇所標準図	測定箇所標準図	摘 要	
幅、高さ、長さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの				
20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの				
20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>歯型板面の歯咬み合い部の 高低差: 咬み合い部中心A、B 点の差</p> </div> 	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>歯型板面の歯咬みあい部の 高低差: 咬みあい部中心A、B 点の差</p> </div> 		字句修正
管 理 方 式			管 理 方 式			
管理図表によるもの(様式3)	結果一覧表によるもの(様式8)	構造図に朱記、併記するもの	測定箇所標準図	測定箇所標準図	摘 要	
幅、高さ、長さで20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの				
20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの				
20点以上のもの	左記のもので20点未満のもの	左記のもので箇所単位のもの	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>歯型板面の歯咬み合い部の 高低差: 咬み合い部中心A、B 点の差</p> </div> 	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>歯型板面の歯咬みあい部の 高低差: 咬みあい部中心A、B 点の差</p> </div> 		字句修正

新 旧 対 照 表

改 正 後					現 行					備 考				
工 種		項 目	規格値(mm)	測定基準	工 種		項 目	規格値(mm)	測定基準					
3 一般 施工	4 一般 舗装 工	13 オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。	3 一般 施工	4 一般 舗装 工	13 オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。			
			幅 W	-25					幅 W	-25				
		平坦性	個々の測定値(X)	平均の測定値(X10)		-	3m ⁷ プロファイルメーター	(σ)2.4mm以下	-	3m ⁷ プロファイルメーター		(σ)2.4mm以下	直読式(足付き)	(σ)1.75mm以下
			直読式(足付き)	(σ)1.75mm以下										
			直読式(足付き)	(σ)1.75mm以下										
	5 地盤 改良 工	14 砂利路盤工	幅 W	-50	施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。延長40m以下のものは2箇所測定する。	14 砂利路盤工	幅 W	-50	施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。延長40m以下のものは2箇所測定する。					
			厚 さ T	-10%				厚 さ T		-10%				
		1 路床安定処理工	基準高 ▽	±50	延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。基準高は、道路中心線及び端部で測定。厚さは中心線及び端部で測定。	1 路床安定処理工	基準高 ▽	±50	延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。基準高は、道路中心線及び端部で測定。厚さは中心線及び端部で測定。					
			施工厚さ t	-50			施工厚さ t	-50						
			幅 w	-100			幅 w	-100						
		延長 L	-200			延長 L	-200							

字句修正

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考			
工 種		項 目	規格値 (mm)	工 種		項 目	規格値 (mm)		測 定 基 準		
3 一般施工	7 工場製作工 共通	1 1 鋳造費 (金属支承工)	ボス ※5	ボスの直径	±0 -1	(新設)	(新設)	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び、橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。			
				ボスの高さ	±1 -1		(新設)		(新設)		
			上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法			JIS B 0403 CT13	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法			JIS B 0403 CT13	
			全移動量 ℓ ※4	ℓ ≤ 300mm		±2	全移動量 ℓ		ℓ ≤ 300mm		±2
				ℓ > 300mm		±ℓ / 100			ℓ > 300mm		±ℓ / 100
			上、下面加工仕上げ			±3	上、下面加工仕上げ			±3	
			組立高さ H	コンクリート 構造物用	H ≤ 300mm	±3	組立高さ H		コンクリート 構造物用	H ≤ 300mm	±3
					H > 300mm	(H / 200 + 3) 小数点以下切り捨て				H > 300mm	(H / 200 + 3) 小数点以下切り捨て
			普通寸法			JIS B 0403 CT14	普通寸法			JIS B 0403 CT14	
			肉厚寸法			JIS B 0403 CT15	肉厚寸法			JIS B 0403 CT15	
削り加工寸法			JIS B 0405 粗級	削り加工寸法			JIS B 0405 粗級				
ガス切断寸法			JIS B 0417 B級	ガス切断寸法			JIS B 0417 B級				

項目追加
測定基準の追記

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考							
工 種		項 目	規格値(mm)	測 定 基 準		工 種			項 目	規格値(mm)	測 定 基 準				
3 一般施工	7 工場製作工 共通	2 鋳造費 (大型 ゴム支承工)	幅 W 長さ L 直径 D	W, L, D ≤ 500	0 ~ +5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差 詳細は道路橋支承便覧参照	3 一般施工	7 工場製作工 共通	2 鋳造費 (大型 ゴム支承工)	幅 W 長さ L 直径 D	W, L, D ≤ 500	0 ~ +5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ(t) の最大相対誤差		
				500 < W, L, D ≤ 1500mm	0 ~ +1%						500 < W, L, D ≤ 1500mm	0 ~ +1%			
				1500 < W, L, D	0 ~ +15						1500 < W, L, D	0 ~ +15			
			厚 さ t	t ≤ 20mm	± 0.5					厚 さ t	t ≤ 20mm	± 0.5			
				20 < t ≤ 160	± 2.5%						20 < t ≤ 160	± 2.5%			
				160 < t	± 4						160 < t	± 4			
			<u>(削る)</u>		<u>(削る)</u>					平面度		1			
			相 対 誤 差	<u>w, L, D ≤ 1,000mm</u>	1					(新設)	<u>(新設)</u>	<u>(新設)</u>			
				<u>1,000mm < w, L, D</u>	<u>(w, L, D) / 1,000</u>						<u>(新設)</u>	<u>(新設)</u>			
			3 仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ (m)					± 3...ℓ ≤ 10 ± 4...ℓ > 10	3 仮設材製作工	部 材		部材長 ℓ (m)	± 3...ℓ ≤ 10 ± 4...ℓ > 10
		外周長 L (m)			± (10+L/10)	外周長 L (m)			± (10+L/10)						
		(新設)		(新設)	(新設)				(新設)						
(新設)		(新設)	(新設)		(新設)										

測定基準の追記

項目追加

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考					
工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準						
3 一 般 施 工	8 橋 梁 架 設 工	1 架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	全長 L (m)	$\pm (20+L / 5)$	各桁毎に全数測定。	3 一 般 施 工	8 橋 梁 架 設 工	1 架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	全長 L (m)	$\pm (20+L / 5)$	各桁毎に全数測定。		
			支間長Ln (m)	$\pm (20+Ln / 5)$					支間長Ln (m)	$\pm (20+Ln / 5)$			
			通り δ (mm)	$\pm (10+2L / 5)$					L : 主桁・主構の支間長 (m)	通り δ (mm)		$\pm (10+2L / 5)$	L : 主桁・主構の支間長 (m)
			そり δ (mm)	$\pm (25+L / 2)$					主桁、主構を全数測定。 L : 主桁・主構の支間長 (m)	そり δ (mm)		$\pm (25+L / 2)$	主桁、主構を全数測定。 L : 主桁・主構の支間長 (m)
			※主桁、主溝の中心距離B (m)	$\pm 4 \quad \dots B \leq 2$ $\pm (3+B / 2) \dots B > 2$					各支点及び各支間中央付近を測定。	※主桁、主溝の中心距離B (m)		$\pm 4 \quad \dots B \leq 2$ $\pm (3+B / 2) \dots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。
			※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10					どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。	※主桁の橋端における出入差 δ (mm)		設計値 ± 10	どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。
			※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h / 1000$					各主桁の両端部を測定。 h : 主桁・主構の高さ (mm)	※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)		$3+h / 1000$	各主桁の両端部を測定。 h : 主桁・主構の高さ (mm)
			※現場継手部のすき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)	設計値 ± 5					主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 $\delta 1, \delta 2$ のうち大きいもの <u>なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。(例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm～8mm)</u>	※現場継手部のすき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)		設計値 ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 $\delta 1, \delta 2$ のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、 <u>マイナス側については設計値以上とする。</u>
			※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。						※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。				

測定基準の修正

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考	
工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準		
4 堤防・護岸	1 護岸基礎工	1 場所打コンクリート工	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
			幅 w	-30		幅 w	-30		
			高 さ h	-30		高 さ h	-30		
			延 長 L	-200		延 長 L	-200		
	2 海岸コンクリートブロック工	2 海岸コンクリートブロック工	基準高 ▽	±50	ブロック個数40個につき1ヶ所の割合で測定。 基準高、延長は施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	基準高 ▽	±50	ブロック個数40個につき1ヶ所の割合で測定。 基準高、延長は施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	
			ブロック厚 t	-20		ブロック厚 t	-20		
			ブロック縦幅 w1	-20		ブロック縦幅 w1	-20		
			ブロック横幅 w2	-20		ブロック横幅 w2	-20		
			延 長 L	-200		延 長 L	-200		
	2 護岸工	1 海岸コンクリートブロック工	法長 ℓ	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。
				ℓ < 5m	-100		ℓ < 5m	-100	
				ℓ ≥ 5m	ℓ × (-2%)		ℓ ≥ 5m	ℓ × (-2%)	
			厚 さ t	-50	厚 さ t		-50		
延 長 L			-200	延 長 L	-200				
2 コンクリート被覆工		2 コンクリート被覆工	のり長 ℓ	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。
				ℓ < 3m	-50		ℓ < 3m	-50	
			ℓ ≥ 3m	-100	ℓ ≥ 3m		-100		
			厚 さ t	t < 100	-20		t < 100	-20	
				t ≥ 100	-30		t ≥ 100	-30	
			裏込材厚 t'	-50	裏込材厚 t'		-50		
			延 長 L	-200	延 長 L		-200		

字句修正

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考			
工 種		項 目	規格値(mm)	測 定 基 準		工 種			項 目	規格値(mm)	測 定 基 準
8 溪 間 工	1 法 面 工	1 か ご 工	基準高 ▽	±50	延長は全箇所 高さ又は径については段数及び長さの異なる毎に測定する。 又、同一段数及び長さの延長が20mを超える場合は、20m毎に測定する。 なお、各個の寸法については、全個数の10%程度とする。	8 溪 間 工	1 法 面 工	1 か ご 工	基準高 ▽	±50	延長は全箇所 高さ又は径については段数及び長さの異なる毎に測定する。 又、同一段数及び長さの延長が20mを超える場合は、20m毎に測定する。 なお、各個の寸法については、全個数の10%程度とする。
			幅 (厚さ)	-50					幅 (厚さ)	-50	
			高さ h	-50					高さ h	-50	
			長さ ℓ	-200					長さ ℓ	-200	
	2 コ ン ク リ ー ト 治 山 ダ ム 工	1 コ ン ク リ ー ト 治 山 ダ ム 本 体 工	基準高 ▽	±30	図の表示箇所測定 1. 設計図 (構造図、標準図模式図等) に表示してある箇所を測定。	2 コ ン ク リ ー ト 治 山 ダ ム 工	1 コ ン ク リ ー ト 治 山 ダ ム 本 体 工	基準高 ▽	±30	図の表示箇所測定 1. 設計図 (構造図、標準図模式図等) に表示してある箇所を測定。	
			天端厚 w1 堤底厚 w2 袖天端厚 w3	-30				天端厚 w1 堤底厚 w2 袖天端厚 w3	-30		
			放水路上長 ℓ1 " 下長 ℓ2	±50				放水路上長 ℓ1 " 下長 ℓ2	±50		
			堤 長 L1 堤底長 L2	-50				堤 長 L1 堤底長 L2	-50		
			法勾配	±0.2分				法勾配	±0.2分		
		2 コ ン ク リ ー ト 側 壁 工	基準高 ▽	±30	1. 図の表示箇所測定 2. <u>上記以外の測定箇所の標準は、天端幅、天端高で各測点及びジョイントごとに測定。</u> 3. <u>長さは、天端中心線の水平延長、又は測点に直角な水平延長を測定。</u>	2 コ ン ク リ ー ト 側 壁 工	基準高 ▽	±30	図の表示箇所測定		
			厚さ w1、w2	-30			厚さ w1、w2	-30			
			長さ L	-50			長さ L	-50			
法勾配			±0.2分	法勾配			±0.2分				
3 水 叩 工		基準高 ▽	±30	<u>基準高、幅、延長は図の表示箇所</u> <u>で測定。</u> <u>厚さは目地及びその中間点で測定。</u>	3 水 叩 工	基準高 ▽	±30	図の表示箇所測定			
	幅 w	-30	幅 w			-30					
	厚さ t	-30	厚さ t			-30					
	延長 L	-50	延長 L			-50					

測定基準の追記

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考										
工 種		項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準		工 種		項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準								
8 溪 間 工	3 鋼 製 治 山 ダ ム 工	1 鋼 製 ダ ム 本 体 工 (不 透 過 型)	水 通 し 部	基準高 ▽	±50	鋼製ダム（枠工タイプ）は図面の表示箇所にて測定。 ダブルウォール構造の場合は、提高、袖高は+の規格値は適用しない。		水 通 し 部	基準高 ▽	±50	鋼製ダム（枠工タイプ）は図面の表示箇所にて測定。 ダブルウォール構造の場合は、提高、袖高は+の規格値は適用しない。		字 句 修 正					
				長さ L1, L2	-50				袖 部	長さ L1, L2				-50				
				幅(厚さ) w1, w3	-50					幅(厚さ) w1, w3				-50				
				法勾配	±0.2分					法勾配				±0.2分				
			袖高 ▽	±50	袖高 ▽			±50										
			幅(厚さ) W2	-50	2 鋼 製 ダ ム 本 体 工 (透 過 型)			堤 長	L	格子形				±50	堤 長	L	格子形	±50
			法勾配	±0.2分					φ	格子形・B 型				±10		φ	格子形・B	±10
			袖高 ▽	±50					W	格子形				±30		W	格子形	±30
	幅(厚さ) W2	-50	w	格子形・A 型 ・B 型		±10	w		格子形・A・B	±10								
	法勾配	±0.2分	高さ	H	格子形・A 型 ・B 型	±10	高さ	H	格子形・A・B	±10								
	3 鋼 製 側 壁 工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、提高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		3 鋼 製 側 壁 工	堤 高 ▽	±50	1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、提高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。									
			長 さ L					±100			長 さ L	±100						
								幅 w1, w2				±50		幅 w1, w2	±50			
												±0.02H			±0.02H			
								下 流 側 倒 れ △				±0.02H		下 流 側 倒 れ △	±0.02H			
			±0.02H								±0.02H							
高 さ h			h < 3m					-50			高 さ h	h < 3m	-50					
			h ≥ 3m					-100				h ≥ 3m	-100					
4 木 製 治 山 ダ ム 工	4 木 製 治 山 ダ ム 本 体 工	基 準 高 ▽	±100	図面の表示箇所にて測定。断面、形状等の変化点毎に測定する。		4 木 製 治 山 ダ ム 本 体 工	基 準 高 ▽	±100										
			長 さ L					-50	長 さ L	-50								
								幅(厚さ) w		-50	幅(厚さ) w	-50						
										±0.5分		±0.5分						

新 旧 対 照 表

改 正 後				現 行				備 考			
工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	測 定 基 準				
1 3 林道	6 落石雪害防止工	4 雪崩予防柵工	高さ h	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。	高さ h	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。			
			延長 L	-200	1 施工箇所毎	延長 L	-200	1 施工箇所毎			
			基礎 幅 w1, w2	-30	基礎 1 基毎	基礎 幅 w1, w2	-30	基礎 1 基毎			
				高さ h			-30				
			アンカー長 ℓ	打込み ℓ	-10%	全数	アンカー長 ℓ	打込み ℓ	-10%	全数	
				埋込み ℓ	-5%			埋込み ℓ	-5%		
				ずれ a	10			ずれ a	10		
				ねじれ b-c	5			ねじれ b-c	5		
				倒れ d	h × 0.5%			倒れ d	h × 0.5%		
			高さ h	+30, -20		高さ h	+30, -20				
	延長 L	-200	1 施工箇所毎	延長 L	-200	1 施工箇所毎					
	1 4 舗装	1 踏掛版工 (コンクリート工)	1 踏掛版工 (コンクリート工)	基準高	±20	1ヶ所 / 1踏掛版	1 踏掛版工 (コンクリート工)	基準高	±20	1ヶ所 / 1踏掛版	
				各部の厚さ	±20	1ヶ所 / 1踏掛版		各部の厚さ	±20	1ヶ所 / 1踏掛版	
				各部の長さ	±30	1ヶ所 / 1踏掛版		各部の長さ	±30	1ヶ所 / 1踏掛版	
(ラバーシュー)				各部の長さ	±20	全数		(ラバーシュー)	各部の長さ	±20	全数
				厚さ	—				厚さ	—	
				(アンカーボルト)	中心のずれ				±20	全数	
アンカー長		±20	アンカー長		±20	全数					
2 防護施設		1 車止めポスト工	1 車止めポスト工	基礎幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。	2 防護施設	基礎幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。	
				基礎高さ h	-30			(新設)	(新設)		
				パイプ取付高さ H	+30 -20			(新設)	(新設)		

項目追加

新 旧 対 照 表

改 正 後					現 行					備 考	
工 種	項 目	規格値(mm)		測 定 基 準	工 種	項 目	規格値(mm)		測 定 基 準		
		個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X10)				個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X10)			
20 道路維持	1 舗装工 1 切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	厚さは20m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1ヶ所の割合とし、延長40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。	20 道路維持	1 舗装工 1 切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	厚さは20m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に1ヶ所の割合とし、延長40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。	20 道路維持	1 舗装工 1 切削オーバーレイ工
		幅 w	-25				幅 w	-25			
延長 L	-100	延長 L	-100								
平坦性	—	3m ² プロファイルメーター(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	平坦性		—	3m ² プロファイルメーター(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下					
2 路上再生工	路盤工	厚さ t	-30	幅、厚さは延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。	2 路上再生工	路盤工	厚さ t	-30	幅、厚さは延長40m毎に1ヶ所の割合で測定。	2 路上再生工	路盤工
		幅 w	-50				幅 w	-50			
		延長 L	-100				延長 L	-100			

字句修正

新 旧 対 照 表

【 土木工事施工管理基準 】

改 正 後					現 行					備 考
工程	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	工程	区分	試験(測定)項目	試験方法	試験(測定)基準	
2 現 場 吹 付 法 枠 工	製造 スト コン クリ ート (<small>←JISマーク表示されたレディーミク スを使用する場合は除く</small>)	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1118 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 連続ミキサの場合： 土木学会基準 JSCE-I 502-2013	工事開始前及び工事中1回/年以上	2 現 場 吹 付 法 枠 工	製造 スト コン クリ ート (<small>←JISマーク表示されたレディーミク スを使用する場合は除く</small>)	ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2 【新設】	工事開始前及び工事中1回/年以上	試験方法の追加
	施 工	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	荷卸し時 1回/日以上、150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたとき。		施 工	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	荷卸し時 1回/日以上、150m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたとき。	
		コンクリートの圧縮 強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	1回8本吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するものと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。 1回に6本(σ7…3本、σ28…3本、)とする。				コンクリートの圧縮 強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準 JSCE F561-2013	

新 旧 対 照 表

【 土木工事施工管理基準 】

改 正 後			現 行			備 考
						試験方法の追加
規 格 値	管 理 方 式	処 置	規 格 値	管 理 方 式	処 置	
コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合：コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランブ）の偏差率：15%以下	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量 50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特別仕様書で指定された工種）	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合：コンクリート内のモルタル量の偏差率：0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5%以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランブ）の偏差率：15%以下	セメント・コンクリートの品質管理基準に準ずる	・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量 50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函渠工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特別仕様書で指定された工種）	
<u>コンクリート中のモルタル単位容積質量差：0.8%以下</u> <u>コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下</u> <u>圧縮強度差：7.5%以下</u> <u>空気量差：1%以下</u> <u>スランブ差：3cm以下</u>			【新設】			
スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm		・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量 50m3 未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函きよ工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特別仕様書で指定された工種）	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm		・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量 50m3 未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の 品質証明書等のみとすることができる。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。（橋台、橋脚、杭類（場所打杭、井筒基礎等）、橋梁上部工（桁、床版、高欄等）、擁壁工（高さ1m以上）、函きよ工、樋門、樋管、水門、水路（内幅2.0m以上）、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特別仕様書で指定された工種）	
設計図書による		・参考値：18N/mm2以上（材令28日） ・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う ※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照	設計図書による		・参考値：18N/mm2以上（材令28日） ・小規模工種 [※] で1工種当たりの総使用量が50m3未満の場合は1工種1回以上の試験、又はレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う ※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照	